



非常食の試食



消防長講話

上島町防災教育セミナー



地震体験車



携帯電話を使用した
災害時伝言ダイヤル体験

7月1日(火) 午前10時30分から消防庁舎2階の地域交流センターを主会場として、町内の全中学生128名を対象にした、防災教育セミナーを実施しました。

防災セミナーは、消防長の講話をはじめとして、災害時伝言ダイヤル、地震体験車、非常食の試食の3つのコーナーを設け、災害に対して日頃からの十分な準備と、防災に対する意識の高揚、知識の向上を図るために行いました。

災害時伝言ダイヤル・災害用伝言板使用体験では、家族の安否の確認や、自分の生存を知らせる災害時に重要な通信手段とあって、真剣な表情で生徒たちは携帯電話を操作していました。

地震体験車では、平成7年に発生した兵庫県南部地震の再現地震を体験し、避難する難しさや、家具固定の必要性を体感しました。強烈な縦揺れ横揺れに一瞬顔をこわばらせる生徒もいました。

非常食の試食では、近年クローブアップされている非常食の重要性を知ってもらうため、カンパン・梅がゆ・ポテトサラダ等の試食をしました。

今後も防災について関心を持ってもらい、「災害に強い上島町」が実現できるよう、住民と町職員一同で取り組んでいきます。

たき火に注意!!

最近、たき火の不注意からの出火が続いています。たき火を行う際には、次のことに十分注意して、火災を起こさないようにしましょう。

始める前の注意事項

- ・消防署へ届出、または電話をする。
- ・周囲に可燃物が無い場所で行う。
- ・乾燥注意報等が発令されている時や、風が強い時は行わない。
- ・水バケツや消火器等の消火できるものを準備しておくこと。

実施時の注意事項

- ・火の粉が飛ばないように少しずつ燃やす。
- ・消火をするまでその場を離れないこと。
- ・子どもだけでたき火をしない。

終わった後の注意事項

- ・火が完全に消えたかを確認すること。

【参考】

上島町火災予防条例により火災とまぎらわしい煙等が発生させるときは、届出が必要です。

平成20年出動件数

年別	火	災	救	急
平成20年(6月)	3		29	
平成19年(6月)	0		29	
昨 年 比	＋3		±0	
20 年 累 計	5		189	

平成20年6月30日現在

火災と救急は119番

※携帯電話からでもつながりますが、発信場所によっては、他の消防本部につながる場合もあります。

消防本部 77-4118(代)



農業講座

しまなみ農業だより

ひょうかん 弓削瓢柑を知っていますか

瀬戸田のシトラスパークが開園してしばらくたったころ、来園者に園内展示カンキツ果実の試食会をしてみると、なかなかの評判だったのが弓削瓢柑だった、という話を広島県の試験場の方から伺ったことがあります。ほー、そんなものがあるんだ、ちょっとやってみよう、ということになり、当時の岩城分場長（協義富氏）が、伝を頼って分けていただいた樹が大きくなり、果実をつけ始めて4～5年になります。当初は果実も小さく、取り立てて特徴が見出せませんでした。去年完熟まで待って試食してみると、これがどうしてたいそう美味で、すっかりやる気になったわけです。今春、山口県大島で栽培しているという報道がなされ、最近他県でも注目されています。今回は弓削瓢柑のご紹介。

樹と果実の様子

接木時の伸長は緩慢ですが、成長し始めると枝はよく伸び、成木の樹高は3m程度の大木になります。樹勢は強く、やや立ち気味のハッサクの樹のようで、着果性は良いので軽く間引き剪定する程度で管理できます。果実は黄色で縦長卵形、お尻のとがっていないレモンのように。当初はせいぜい握りこぶし大でしたが、今春の果実は縦15cm程度に大きくなったものもありました。2～3月頃はまだ酸味が強く、4月を過ぎる頃から食べられるようになりますが、この時の果実はまだ苦味があり、ブンタンの香りがするハッサクといった感じ。しかしもう少し待つとこの苦味が感じられなくなり、まるで甘くさわやかで苦味のないグレープフルーツのようになります。果皮はしっかりしていますが手で剥け、中の袋も一見ハッサクのようなのですが、完熟すると袋ごと食べられます。もちろん袋を剥いても、イヨカンのように手が果汁でべちゃべちゃになることはありません。露地栽培品の完熟期は昨年の場合6月中旬頃、今年はやや遅く7月に入りました。完熟期間が3～4週間続いた後、落果するようです。また、樹上に果実を成らせながらも、結果母枝があれば翌年の果実を着けるようです。

そもそもの由来（昭和23年刊行の日本柑橘図譜・下巻によると…）

昭和4年、長崎県で開催された九州各県連合の柑橘品評会に、熊本県小田村（現 熊本県玉名市）から出品されていたのを、台北帝国大学教授であった田中長三郎氏（カンキツ類のほとんどを分類し、名前をつけたカンキツ研究の巨人）が見出し、出品者から分けてもらった穂木を台北帝国大学に植栽した、とあります。小田村付近で弓削という地名は発見できませんが、熊本市を流れる白川の上流、熊本市龍田町に弓削神宮、対岸の熊本市石原町に弓削神社があり、このあたりを弓削というようです。今はなくなってしまいましたが、四国、九州地方にかつて瓢柑というカンキツがあり、これと区別するために弓削瓢柑という名前を採ったのでしょうか。元来は熊本の在来系品種であったようです。

普及の狙い

先に上島町では温州みかんタイプの新品種・たまみに取り組んでいただいています。これは甘み強く香り高い高級カンキツとして、病虫害防除や防寒対策など、さまざまな栽培技術を駆使して積極的に生産、販売していこうというものです。一方で弓削瓢柑は、栽培が容易で樹も大きくなり豊産性であること、袋掛けしなくても越冬可能なこと（もちろん袋に入れてやるときれいな果実に仕上がりますが）、対病性は他のブンタン並みと見られることなどから、最低限の管理による省力放任主義でも何とかかなりそうです。収穫期が遅くなるのが気になりますが、他のおいしいカンキツが目白押しの2～3月にぶつけて勝ち目のない勝負をするより、完熟品を初夏・競合品が何もない時期に収穫・販売できる、という利点があると考えたほうが良いでしょう。また、もし万が一収穫できなかったとしても、最後には落果するので樹が枯死してしまうということもありません。

せっかく「弓削」という名前をいただいているのですから、特産品としない手はありません。現在、しまなみ指導班（旧 岩城分場）とJAグリーン弓削では、普及に向けての苗の準備に取り掛かりました。興味をもたれた方は、JAグリーン弓削（77-3135）またはしまなみ指導班（75-2014）までご連絡ください。

